

[016] 九州大学東洋史論集表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/24601>

出版情報：九州大学東洋史論集. 16, 1988-01-25. 九州大学文学部東洋史研究会
バージョン：
権利関係：

編集後記

本誌も十六号を刊行するはこびとなりました。これもひとえに読者・執筆者の御協力のおかげと厚く感謝しております。

本誌『九州大学東洋史論集』は昭和四七年度に越智重明教授が刊行を企図し、年一回の刊行の予定で今日まで順調に成長を続けてまいりました。越智教授が本誌の刊行を企図した頃は、学園の混乱もようやく終息に向った時で、教授は研究室の正常化に尽力される日々を送っておられ、本誌刊行も研究室における学問活動の重要な一環でありました。爾來十五年、各号には研究室在籍者及び卒業生の労作、力作が掲載された。最近では海外留学生の論考も登場しております。多くの俊英が国立、私立の各大学に就任し、一方、大学の国際化の波も九大として例外ではなく、今日中国一名、中国台湾三名、韓国一名を数えています。越智教授は東洋史学講座主任の重責を十二分に果され、昭和六二年三月末をもって停年退官されました。

本誌刊行責任者も、私儀川勝が引き継ぐことになりましたが、越智先生の時と同様に皆様方の御懇情、御協力をお願いいたします。

本号執筆者の紹介、編集方針を述べますと、巻頭論文に中国上海復旦大学樊樹志氏の論考を掲げました。これは従来、本誌の執筆が九大東洋史研究室関係者に限られていた殻を破り、一般学術誌として飛躍せんとする企図

によるものであります。つきましては財政的手当も必要で、この段も皆様方読者諸兄姉の御協力を頂きたい所以であります。なお、小林聡氏・劉序楓・陳青鳳氏は九大大学院博士後期課程在籍中であり、劉・陳両氏は中国台湾からの留学生です。宜しく御検討下さい。

(川勝 守)